

教育 最前線

連載 5

Honda DREAM高槻 [スポーツライディングスクール]

バイクを操る楽しさを実感してもらう ライディングスクール

「高い安全意識を持ち、正しい運転姿勢で確実な操作をすることが、事故を減らすことにつながるのではないかと稲富さんは考えている。そこで、スクールでは、基本操作の練習に時間をかける。特にスクール前半、初級者から上級者まで一緒になっ

運転の基本をじっくり練習

ポイント①

この日の参加者は、32名。免許取立ての初級者から、近隣の教習所指導員を含む上級者まで、参加者の運転経験やレベルは幅広い。このメンバーを、ホンダドリーム高槻の稲富博文社長を含むホンダが認定する3名のホンダスポーツライディングスクールインストラクター、2名のライディングアドバイザーが指導にあたる。



写真上：走行中のフォーム作りを意識して練習に取り組む
写真下：インストラクターによるブレーキングのデモンストレーション

「バイクを安全に操る楽しさを多くの方に実感してほしい」というのが、稲富さん

ポイント③

この他にも、上級者の視線、リアブレーキのタイミングなどを観察し、自分の運転の際に活かしてもらおう。

バイクを操る楽しさを実感



初級者は上級者の走りを見て学ぶ

ポイント②

スクール後半は、前半の練習の様子からスキルに応じて3グループに分けられる。初級者は、休憩時間に上級者の走行を見ても練習の1つ。「上級者のヘルメットの動きを見てください。ブレがなく安定しています」と稲富さん。初級者は上級者の走行を見ることが、より具体的に安全な走り



前を走るインストラクターが、参加者にカーブを曲がる際の視線や運転姿勢などをアドバイスする

【主な練習内容】

1 点検・準備

事故を防ぎ、ツーリングなどを楽しむには、体調管理や車両点検も欠かせない。車両点検は怠りに行き、自分のバイクが安全かどうかは自分の目で確かめる。点検箇所は「ねん・お・しゃ・ち・え・ぶ・く・とう・ば・しめ(燃料、オイル(油類)、車輪、チェーン、エンジン(異音)、ブレーキ、クラッチ、灯火類、バッテリー、締め付け(ボルトの緩み))」。初級者はインストラクターから点検方法について詳しい説明を受ける。



2 ブレーキング練習

最初に、インストラクターがブレーキングのデモンストレーションを行う。制動距離が短く安定して停止するには、前後のブレーキをバランスよくかける必要があることを、良い例・悪い例を実演しながら説明する。



その後、参加者は安全な停止と、緊急時のための急制動の2種類のブレーキングを練習する。ブレーキレバーの握り加減や、姿勢、身体の動かし方などについて個別にアドバイスをもらう。

5 グループ別の走行練習

初級者は、走る・曲がる・止まるの基本をしっかりと練習する。走行中のフォームやバランスを意識して練習に取り組む。中級者は、上級者のライン取りや視線・身体の動かし方など、より細かいところまでじっくりと観察し、自分の走行に活かす。上級者は、ブレーキやクラッチは必ず4本の指で操作し、スピードは競わず誰が見てもかっこいいと思えるような見本となるフォーム作りを心がけて走行する。

3 パイロンスラローム練習

バイクの場合は、転倒が大きな事故につながるため、走行中のバランス感覚を養う練習が大切となる。安定して走れる正しい姿勢(目・肩・腕・手・腰・ひざ・足)を意識してパイロンスラローム練習に取り組む。



インストラクターのアドバイスの中で目立つのが、視線について。特に初級者は視線が近くなりがち。視線を先に送り積極的に先の情報を得ることでブレーキやアクセルのタイミングなど、早めに余裕を持った操作が生まれる。

4 コーススラローム練習

小さなコーナーの走行を苦手とする初級者も見られる。曲がる手前での減速、進行方向への視線などインストラクターが細かくアドバイスする。曲がる際に「車体が倒れてしまうのではないかと不安に感じると手だけで操作しようとしてしまう。腕の力を抜いてハンドルを軽く握り、正しいフォームを心がけて走行する練習を繰り返す。



休憩中に、上級者の走行を見て学ぶ初級者



の願い。バイクに憧れて免許を取ったが、乗ってみるとしんどかったり上手く乗れなかったり。結局、乗らなくなる人、公道で無理な運転をする人がでてしまうという。スクールでは、楽しく乗り続けてもらうためには、無理な走りはしないことを意識して指導している。そのため、上級者の走りを見て憧れや目標を持つことは大切にするが、無理はせずにレベルに合わせた練習を繰り返す。「徐々に上達しているという実感を持つことが自信につながります」。

スクールの参加で 安全の輪を広げるきっかけに

「目標や追求する技術レベルは異なりますが、よりスムーズに操作したい、より安全に美しく走りたいという悩みは初級者の頃からほとんど変わっていません」と語るのは、近隣の教習所で指導員を務める参加者。そんな上級者の姿を見つめる初級者は「いきなりは無理だけれど、少しずつきれ

いな走りができるようになってほしい」と話す。初級者から上級者まで、仲間同士での情報交換も活発だ。「スクールの参加者だった方の中から、今は安全運転を指導する立場になっている方もいます。ここに参加している方が、一般道路でも他の良い見本となる安全運転をして、安全を広げていくことが大切」とスクールがきっかけで安全運転が多くの人に広がっていくことを稲富さんは期待する。